



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ハーメネイー最高指導者の発言

(4日付現地各紙)

11月4日付現地各紙によれば、同月2日にハーメネイー最高指導者が、イランの有識者(大学教授、神学校教授、科学者、国会議員、政府関係者など)との間で4時間にわたり会合を開き、「イスラムとイラン人の発展モデル」について協議した。この協議においては14人の参加者が上記モデルについて自らの見解を示した。

ハーメネイー最高指導者の発言の概要は以下の通りである。

1. 今回のような会合を開催するのはイランでは前例のないことである。戦略的思考に関する会議の継続が本会合開催の主目的である。包括的な計画がなければ、過去30年間に文化や経済の問題で見られたように、矛盾した動きに直面することになる。過去30年間様々な経験が積み重ねられたことを受けて、現在はこのモデルを検討し始めるにあたり好機である。もっとも、慌てて結論を出すことは慎まなければならない。
2. 本モデルは、全てのイランの計画や長期計画に関する文書よりも上位の文書となる。本モデルにとって、思想、科学、生活、精神性の4つの分野が重要である。
3. 「イスラム」という名称を用いたのは、我々の社会や体制がイスラムだからである。我々がイスラムの資源を用いて自らの発展計画を編纂することを誇りに思う。
4. 「イラン人の」という名称を用いたのは、イランの歴史、地理、文化、経済、社会を考慮する必要があるとともに、本モデルを考案するのはイラン人だからである。もっとも、「イスラムとイラン人」という言葉は、他者の業績やその正しい経験を利用しないという訳ではない。
5. 本モデルを検討するにあたり、神の唯一性の問題は完全に必要であり、神の唯一性は人類社会の問題の解決および正しい発展の道を開くものである。
6. イスラムでは、腐敗や支配、贅沢に利用されない限りにおいて、富を生産することを理想的なものとする。

中東調査会補足

- ・ 昨年の大統領選挙後、イラン内政上、現体制の中でイランとイスラムをどう調和させるかは一つの課題となっている。ハーメネイー最高指導者が4時間にわたる今回の会議を開催したことからは、宗教都市コムへの9日間の訪問と並んで、現体制内で試行錯誤している様子が窺える。
- ・ 本会議に出席したダーヴードイー大統領府戦略研究所長は、現在、コムの高位ウラマー（イスラム法学者）および大学の研究者を招き、政治発展および経済発展に関する指標策定に関して22のプロジェクトが進行していると発言しており、政府としてもウラマーとの連携を深めている様子が看取される。